

第368回監査セミナー

2024年3月26日

演 題：2024年3月期決算の留意事項～海外事業の撤退に伴う会計上の留意点
講 師：公認会計士 山岸 聡氏

昨年末に公表された「日本企業が米国企業を M & A で取得する」記事が注目を浴びています。海外に進出する方向の案件ですが、最近は海外における紛争の報道を耳にしない日はなく、海外事業を継続させるのか、撤退するのかで頭を悩ませている企業もあるのではないのでしょうか。特に政情に不安のある海外の地域において事業を展開している企業は、企業としての機能が維持できなくなり、事業継続・撤退について本腰を入れた検討を急がれている場合もあるかと思えます。今回はこのような状況の企業、特に撤退の意思決定を行った場合に応じた会計上の対応について考察してみたいと思います。

図表1 事業の継続・撤退における親会社の単体決算・連結決算における留意点

区分	継続	撤退	
		売却	清算
親 会 社 の 個 別 決 算	投融資の評価 債務保証損失 引当金など	子会社株式評価損 の税効果	子会社株式評価損 の税効果 ※清算損の税務上 の扱いに注意
連 結 決 算	社海 の外 決 算 会 社 の 外 決 算 会	固定資産の減損 繰延税金資産 の回収可能性	固定資産の減損 繰延税金資産の回 収可能性 継続企業の前提
	仕連 結 結 算 精 算	のれんの一時 償却 為替換算調整勘定 の税効果 売却による連結除 外のタイミング	為替換算調整勘定 の税効果 清算による連結除 外のタイミング

I. 事業継続の場合

1. 親会社の個別決算

(1) 投融資の評価

親会社における子会社株式の評価は、子会社の財政状態が悪化することで実質価額が著しく低下した場合は、回復可能性がある場合を除いて減損処理を行います。減損処理でポイントになるのが超過収益力の毀損した事実認定と回復可能性の判定の2点です。

①減損処理の規定

市場価格のない株式等が、発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは、相当の減損をします。

②実質価額とは

通常は、この1株当たりの純資産額に所有株式数を乗じた金額が当該株式の実質価額となりますが、会社の超過収益力や経営権等を反映して、1株当たりの純資産額を基礎とした金額に比べて相当高い価額が実質価額として評価される場合もあると定められています。

(2) 親会社が再建計画を策定する場合

①増資の場合

子会社株式の実質価額の低下している下落の割合が、増資によって低く計算されることがあります。

次のような場合（HP「第368回監査セミナー・山岸先生レジュメ」=以降「同」と表記=6～7頁参照）、増資700を行うと純資産が1000まで回復しますが、1000の子会社株式と700の子会社株式を一体として評価することはできません。当初の1000は一旦損切りを行う必要性について検討することが必要です。

②貸付けの場合

親会社個別の決算では貸付金の回収可能性を検討して回収不能な部分に対して貸倒引当金を計上する必要があります。

(3) 子会社が債務超過の場合

①債務超過になった場合

債務超過部分に対する貸倒引当金の計上は、親会社から子会社へ融資している金額にもよりますが、貸付金に厳密には子会社に対する債権の金額を上限として、債務超過額の金額の貸倒引当金を計上することになると考えます。

②債務超過の金額が貸付金の合計を上回る場合

債務超過の金額が貸付金の合計を上回る場合は、債務保証を行っていれば債務保証損失引当金を計上することを検討しなくてはなりません。

2. 連結決算

(1) 海外子会社の決算

子会社が所在する国において政情不安等のカント

リーリスクがあると、通常の営業活動を行うことができず、製品の販売可能性や販売した際の売上債権の回収可能性が問題となるケースが多いと思われます。その状態が継続すると長期的な回収を予定していた固定資産に減損の兆候が表れ固定資産の帳簿価額を上回る将来キャッシュ・フローが見積もれず、併せて、繰延税金資産の回収可能性にも疑義が生じるという連鎖反応が起きます。

①棚卸資産及び債権の評価

会計基準の定めは、販売金額と帳簿価額の大小に関して、販売金額<帳簿価額であれば評価を切り下げるという規定になっていますが、実務においては、需要の減退という事象があると、在庫している数量にも着目して評価を検討しなくてはなりません。

②固定資産の減損

設備投資を行った際の計画を下回った実績しか達成できていないと減損の兆候に該当することが多いと思われます。監査の現場では、減損損失の計上の有無を検討した際の将来キャッシュ・フローの見積りは、その後の実績の金額と比較するバックテストという手続きを実施することが多いです。

③繰延税金資産の回収可能性

固定資産の減損と同じような議論ですが、将来の課税所得の発生が十分に見込まれないとこれまで計上していた繰延税金資産を取崩すことになります。

繰延税金資産の回収可能性は会社等を単位とした納税主体ごとに見積ることになるので、見積の単位が異なりますが、外部環境の変化を考慮した同一の事業計画を基礎として実施する必要があるという点では共通事項が多いため、両者の整合性に留意が必要となります。

(2) 連結精算仕訳

親会社の個別財務諸表上において子会社株式の簿価を減損処理した場合は、連結上ののれんを一時償却する規定があります。

減損処理後の簿価が連結上の子会社の資本の親会社持分額とのれん未償却額(借方)との合計額を下回った場合(HP「同」15頁参照)には、株式取得時に見込まれた超過収益力等の減少を反映するために、子会社株式の減損処理後の簿価と、連結上の子会社の資本の親会社持分額とのれん未償却額(借方)との合計額との差額のうち、のれん未償却額(借方)に達するまでの金額について、のれん純借方残高から控除し、連結損益計算書にのれん償却額として計上するという扱いになっています。

Ⅱ. 撤退の場合

1. 子会社を売却する場合

(1) 親会社の個別決算

①売却損が見込まれる場合の評価

売却額がいくらになるかが重要です。1株当たりの



純資産額に所有株式数を乗じた金額が当該株式の実質価額で、この実質価額が取得原価に比べて50%程度以上低下した場合に評価を切り下げる規定になっていますが、1株当たりの純資産の金額よりも低い金額で売却を見込む場合は評価損を計上する検討を行う必要があると考えます。

②子会社株式評価損に係る税効果

子会社株式の売却を意思決定した際、過去において子会社株式の評価損を計上して将来減算一時差異があるケースは繰延税金資産の回収可能性を検討しなくてはなりません。

親会社の個別財務諸表上において子会社株式について有税で減損処理(=子会社株式評価損)をした場合、当該子会社の会計上の簿価は税務上の簿価を下回り、将来減算一時差異が生じています。

この将来減算一時差異については、回収可能性を検討し、回収可能な場合は繰延税金資産が計上されるのですが、売却のスケジュールを示すことができず、スケジュールリングが不能であると繰延税金資産を計上することができないことが多いです。

しかし、子会社株式を売却する意思決定が行われると、将来減算一時差異の解消がスケジュールリング可能となり、回収可能性があれば繰延税金資産が計上されることになります。

(2) 連結決算

①個別財務諸表で計上された子会社株式評価損の扱い

連結財務諸表上、個別財務諸表で計上された子会社株式評価損は取り消されます。この評価損の消去に係る連結財務諸表固有の将来加算一時差異については、個別財務諸表における税務上の扱いや子会社株式の評価損に係る将来減算一時差異に対する繰延税金資産の計上の有無によって対応が分かります。

②取得してから損失を計上していた場合

子会社取得時は、個別財務諸表と連結財務諸表の簿価は一致していることから一時差異は生じていませんが、投資後に子会社で損失を計上すると、連結上の簿価が個別財務諸表上の簿価を下回るため、連結上は将来減算一時差異が発生します。

③海外の連結子会社等に対する為替換算調整勘定

海外の連結子会社等に対する為替換算調整勘定は、主に子会社株式を売却した際に為替差損益として実現することになります。よって、子会社株式の売却の意思が明確な場合に税効果を認識し、それ以外の場合には認識しないものとする扱いになっています。子会社投資の連結貸借対照表上の価額が親会社の個別貸借対照表上の投資簿価を下回る場合が将来減算一時差異で、上回る場合が将来加算一時差異です。

税効果を認識する場合は、繰延税金資産又は繰延税金負債に見合う額を加減して為替換算調整勘定を計上します。

為替換算調整勘定は、発生時に連結上では損益が計上されませんが、当該為替換算調整勘定の実現は、子会社等の株式の売却時に個別決算上の売却損益に含めて計上されます。

④連結除外のタイミング

実務において海外子会社の決算日は親会社と異なる場合が多いです。子会社の決算日と連結決算日の差異が3か月を超えない場合、例えば、親会社の決算日が3月末で子会社の決算日が12月末である場合は、子会社の12月決算を親会社の連結決算に取り込むことができます。

子会社株式の売却が仮に2月であったとした場合、つまり子会社の決算日以降かつ親会社の決算日までに子会社の株式が売却された場合は、連結財務諸表上では子会社株式売却日までの子会社損益を取り込むことが原則となりますが、みなし売却日の定めにより売却日の前後いずれかの決算日に売却が行われたものとみなして処理することができます。

2. 子会社を清算する場合

(1) 親会社の個別決算

①子会社株式清算損の税務上の扱い

子会社の清算が見込まれる場合や、清算中である場合は法人税法における有価証券の評価損の損金算入の要件を満たす場合もあると思いますが、100%子会社(完全支配子会社)の場合は清算損が損金不算入となります。その代わりに清算時の繰越欠損金の引継ぎができますので両者を併せて税効果会計上の論点を考察します。

具体的には、完全親子会社の関係にあり、子会社の清算が見込まれる内国法人であれば親会社において子会社株式の評価損は損金に算入されない扱いで、実際に子会社が清算した際の子会社株式消滅損も損金に算入されません。

②繰越欠損金の引継ぎ

一方、完全支配関係にある子会社で清算が終了した際の繰延欠損金は親会社に引き継ぐことができます。

③繰越欠損金の引継ぎに係る税効果

100%子会社を清算する場合は繰越欠損金の引継ぎ

が可能で、この繰越欠損金に対して繰延税金資産を計上することも可能ですが、そのタイミングが論点になります。

売却の場合の将来減算一時差異はスケジュールリングに基づいて繰延税金資産を計上することが可能ですが、清算の場合は上記のような扱いから将来減算一時差異の定義を満たさないため繰延税金資産を計上することができません。

代わりに、繰越欠損金に対して繰延税金資産を計上することができますが、子会社の財産が確定した時点において繰延税金資産を計上することになると考えます。

(2) 連結決算

①海外子会社の決算

清算を前提としますと、事業継続の場合と比較して、長期間で回収を予定している資産の評価がより一層厳しくなると考えます。

繰延税金資産は将来の課税所得が見込まれる前提で計上していますので、利益が見込まないとなりますと繰延税金資産は計上できなくなります。

固定資産も使用価値と正味売却価額の2つの観点がありますが、使用価値は繰延税金資産の回収可能性と同じでプラスの将来キャッシュ・フローが見込めない限り減損の可能性が高いです。唯一の望みは正味売却価額が帳簿価額を上回るかという点ですが、土地や機械装置の帳簿価額を上回る金額で売却できるかどうか(グループ会社への売却含む)が論点です。

棚卸資産は、保有する製品等が全て販売できるかどうか論点です。単価と数量に分けて検討が必要ですが、グループ会社に移管させる方法も考えられます。

②連結精算仕訳

事業継続の場合はのれんの一時償却を検討しましたが清算の場合も同じです。加えて事業継続の場合はのれんの未償却残高が残ることがありますが、清算の場合はのれんの減損も検討しなくてははいけません。

③為替換算調整勘定の税効果

売却の場合と清算の場合の違いは、売却の場合は一部だけ売却することが考えられますが、清算の場合は子会社自体が消滅してしまうため一部だけという選択肢がありません。

子会社の支配を喪失するパターンでは、
＜例示1＞

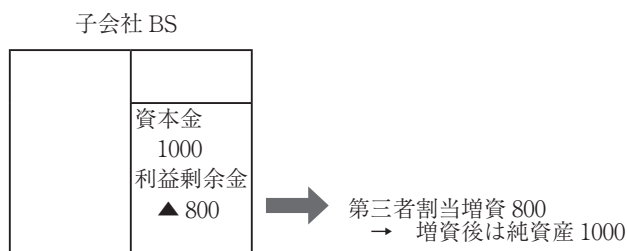
100%子会社の連結上の簿価が100で、100%持分の売却価額が60の見込みであるような場合。支配を喪失する場合。

＜例示2＞

上記のケースで60%持分を譲渡して40%を残す場合。支配を喪失する場合。

<例示3>

第三者割当増資を行って自らの持分が20%になった場合。支配を喪失する場合。



第三者割当増資前	第三者割当増資後
A 社 持株 100 株 (100%)	⇒ A 社 持株 100 株 (20%)
	⇒ 第三者割当 400 株 (80%)

④連結除外のタイミング

清算株式会社等のように継続企業と認められない会社については、継続企業と認められないという理由だけでは、子会社の範囲から除かれることとはならず、これらの会社についても、意思決定機関の支配が行われている場合には子会社に該当し、原則として連結の範囲に含めます。

法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準の改正

1. 主な改正点

改正前の企業会計基準第27号「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」は、所得等に対する法人税、住民税及び事業税等（以下、「法人税等」という。）は法令に従い算定した額を損益に計上するという内容でした。

しかし、会計上は個別財務諸表上における評価・換算差額等はその他の包括利益に計上されますが、課税所得計算上の益金又は損金に算入され「法人税等」が課せられることがあります。課せられる「法人税等」は税引前当期純利益の直後に税金費用として計上されますと、税引前当期純利益と税金費用が対応していない問題点がありましたため以下のように改正されました。

基準第5項

5. 当事業年度の所得等に対する法人税、住民税及び事業税等については、次を除き、法令に従い算定した額（税務上の欠損金の繰戻しにより還付を請求する法人税額及び地方法人税額を含む。）を損益に計上する。

(1) 企業の純資産に対する持分所有者との直接的な取引のうち、損益に反映されないものに対して課される当事業年度の所得に対する法人税、住民税及び事業税等

(2) 資産又は負債の評価替えにより生じた評価差額等に対して課される当事業年度の所得に対する法人税、住民税及び事業税等

2. 税金費用の計上区分

基準第5-2

前項(1)及び(2)の当事業年度の所得に対する法人税、住民税及び事業税等については、次の区分に計上する。

(1) 前項(1)の当事業年度の所得に対する法人税、住民税及び事業税等については、純資産の部の株主資本の区分に計上する。具体的には、当該法人税、住民税及び事業税等を株主資本の対応する内訳項目から控除する。

(2) 前項(2)の当事業年度の所得に対する法人税、住民税及び事業税等については、個別財務諸表上、純資産の部の評価・換算差額等の区分に計上し、連結財務諸表上、その他の包括利益で認識した上で純資産の部のその他の包括利益累計額の区分に計上する。具体的には、当該法人税、住民税及び事業税等を、個別財務諸表上は評価・換算差額等の対応する内訳項目から控除し、連結財務諸表上はその他の包括利益の対応する内訳項目から控除する。

<設例>

A社が保有するその他有価証券の取得価額は1000で期末における時価が1500でした。翌期首にA社はグループ通算制度に加入することになったため、税務上は時価評価され、上記の時価と取得価額との差額500に対して課税が行われた。

期末の処理（改正前）

(借方)	(貸方)
その他有価証券(BS資産) 500 /	評価差額金(BS純資産) 500
法人税等(PL) 150 /	未払法人税等 150

→ 税前利益との関連がない

期末の処理（改正後）

(借方)	(貸方)
その他有価証券(BS資産) 500 /	評価差額金(BS純資産) 500
評価差額金(BS純資産) 150 /	未払法人税等 150

（本要旨は講師の山岸聡先生からご寄稿いただきました）



演 題：寄り添う言葉

講 師：歌人、京都大学名誉教授、JT 生命誌研究館館長 永田 和宏氏

《はじめに》

短歌といいますと、すぐに花鳥風月へ話が行きそうですが、実は時代と密接に関わっており、時代がどんなふうに歌われてきたか、例を挙げながら、最初に話します。もう一つ、歌の大きな力として、人への思いを伝え、表現することがあります。「相聞歌」恋の歌と、人を悼み送る歌「挽歌」の二つですが、それぞれ歌を挙げながら話します。

Ⅰ．時代を映す「短歌」～新型コロナを歌う

《冒頭、人類の歴史は「感染症」との闘いでもあったと語り始め、典型例として、天然痘との闘いを振り返りました。さらに 100 年前の第一次世界大戦さなかのスペイン風邪は、大戦終結を早めるきっかけとなる一方、ドイツに巨額な賠償を課すことには反対の米大統領が罹患し講和会議を欠席。ドイツを疲弊させるほどの賠償金が決まり、結局は第二次大戦の火種を作ってしまった、と世界史の“皮肉”を話しました。》

スペイン風邪では当時の世界人口 18 億人のうち、3 分の 1 の感染者を出し、死者は 4 千万人と言われているが、（統計がはっきりしていない）中国などを含めると死者は 1 億人にのぼった、とも言われます。今回の新型コロナは（昨秋のデータで）世界人口 70 億人のうち、6 億 9 千万人、10% が感染。そのうち死者は 1 % の 690 万人。日本でも 7 万 8 千人が亡くなりました。

私は朝日新聞の「歌壇」の選者ですが、初期にはこんな投稿がありました。

「街中で会う人会う人みなマスクどこの店でも売ってないのに」（伊藤次郎）

そうでしたね、あの頃、マスクを買いに行ってもどこも売り切れで、どこにも売っておらず、それでも街中の人がマスクをしていました。それでも正常性バイアス（楽観性バイアス）があって「自分だけは大丈夫」という雰囲気がありました。国民全体が「ちょっとヤバいかも」と思い出したのは、「最後までコントか本当か分からない手品のように消えたおじさん」（澤田佳代子）と歌われた志村けんさんの死からです。感染を公表し、入院してわずか 4 日間で亡くなり、肉親は遺体にも会えなかった事が新聞、テレビで大々的に報じられてから、一挙に国民に警戒感を植え付けました。

斎藤茂吉はスペイン風邪に罹っています。1917 年（大正 6 年）長崎医専教授として長崎に赴任し、翌年から流行り始めたスペイン風邪を「寒き雨まれまれに降りはやりかぜ衰へぬ長崎の年暮れむとす」と歌い、用心はしていました。ところが、1920 年（大正 9 年）、義弟の長崎来訪で妻、長男（茂太）とともに、ホテルのレストランで食事をします。我々の経験でもこうし



た時期は「（人と接触する危険性がある）レストランへは行くな」でした。家族も含め罹患しました。

「はやりかぜ一年おそれ過ぎ来しが吾は臥りて現ともなし」と歌い、実際、この時茂吉は危なかったのです。同時に罹った長崎の教授二人は亡くなっています。茂吉にして、あれほどの医学の知識があって、恐れて気をつけていたのに、どこかで家族と食事に行っても大丈夫と思う意識が働いていたのです。今回の投稿でも「ウイルスの世界中の広まりに自分だけはないと考えている」（高橋健興）というものがありました。正常性バイアスですね。必要以上に恐れることはないけれど、自分だけでなく周りの人も危険にさらすことになり、やはり十分注意しておきたいことでした。

今回の新型コロナでは、沢山の歌が歌われ、現代歌人協会では 2 冊のコロナ歌集を出しています。その中で私が新聞歌壇に採った歌で、こんなものがあります。

「ハリネズミの夫婦の適度な距離感が外出自粛で乱されている」（箕輪富美子）

この夫婦がこれまで保っていた適度な距離感が旦那の外出自粛で乱されてやたら喧嘩してしまうという歌です。

「唐突にコロナ離婚がわかるわとピアノに向かう休日の妻」（上門善和）

この歌はもっと怖いんです。旦那がいつも家にいるのでいらない喧嘩をして急に離婚してしまうコロナ離婚という言葉も一般的になりました。この歌の奥さんはコロナ離婚の話が新聞等に出ていて、突然「コロナ離婚って分かるわよね」とそれだけ言って、自分の部屋に行きピアノを弾き始めました。コロナ離婚を言い渡されそうで、怖い。

これらの歌を見ていると、大変な状況だけれど民衆というのは非常に強靱でしたたかなもので、大変な状況を実に軽やかに歌いながらやり過ごそうとしています。このしたたかさがないと、なかなか人間って生活できません。そんなことが良くわかります。次のような素晴らしい歌も出て来ました。

「テレワーク出来ない人が支えてる文明社会の根っこの部分」(藤山増昭)

私が年間大賞に採った歌です。藤山さんはお医者さんです。政府は外に出ずに家でテレワークをしろ、と勧めているけれど、この社会はテレワークが出来ない人たちが、電車やバスの運転手、スーパーのレジ打ち、医者や看護師等が支えているのではないか、(政府の勧め通りに)彼らがテレワークをしたら社会は動きませんよ、根っこの部分はテレワーク出来ない人が支えているのですよ、と言っています。立派な認識だと思いました。

こんな歌もありました。

「動画にはソファーに寛ぐ首相あり格差社会の現実ここに」(神蔵勇)

(亡くなった方をあんまり言うのはまずいですが)皆さん、あの動画を覚えていますか。安倍首相がソファーで、横に犬を侍らせて音楽を聴きながらコーヒを飲んでいる、「(コロナ禍では)皆さんこういう生活をしましょう」という政府の宣伝でした。藤山さん指摘の、そんなことができない人こそが社会の根っこの部分を支えているんだという視点が見事に欠落したコマーシャルでした。

次の歌はもっと鋭い。

『犬を抱きお茶飲む人のツイッターに35万の「いいね」つく国』(今西富幸)

首相や政府より、最もまずいのはそういう動画を見て、何も思わないで「いいね」を35万もの人がつけることです、という指摘です。こうした人々が国の大臣を選ぶ力を持って政治を左右するんだという大きな危機感で、無意識・無批判に「いいね」をつける人を批判しています。ドイツのヒトラーは合法的に皆の選挙で選ばれ首相となりました。我々はその辺りをきちんと見ておかないとどうなるかわからない、というのが今西さんの歌の意味するところだと思います。

このように歌は我々が直面している現実を、ある意味で軽妙に、ある意味で非常にシリアスに歌い取ることが出来ます。私はこういう歌が残っていくことはとても大事なことだと思います。あと100年も経てば、2020年から2023年にかけて蔓延した新型コロナウイルスのことは、世界でこれだけの死者が出たにもかかわらず、歴史的時間では多分、10行にも満たない出来事になるでしょう。その時に民衆はどんなふうにそれに対処したのか、どんなふうに受け止めていたのか、という事は歴史上には残っていないでしょう。それを残せるのは、こうした民衆が手軽に作れる詩、或いは短歌という形式です。一首、一首の歌は一人の人間の思いです。けれどもこれを集めて何十首、何百首の歌集で残しておく、その時の民衆の思いが、心の中心のことが後世に伝わるのです。

Ⅱ. 人への思いを伝える、表現する短歌～挽歌、相聞歌 1. 言葉の力

私は言葉とは究極のデジタルであると思っています。デジタルですから、何でも表現できると思うのは

間違いです。(二本の木がある風景写真を示しながら)「ここに2本の木があります」と言ってしまうと、途端にそれ以外のものは見えなくなってしまう。言葉にするという事は、「言分け」とも言いますが、分節化、つまりアナログの世界の中の一部を切り取る作業です。我々は世界を認識するのは言葉をもって考えますから、デジタル化に他なりません。世界の中で自分が何を注目しているかを切り取っていく、これが認識という作業の本質です。

短歌は31文字という非常に短い言葉で表現する詩形であって、しかもその言葉はデジタルでしかない。短歌の鑑賞で大事なことは、表現されたものの向こうにある表現されなかったものをいかに自分で想像できるか、という事です。

デジタルたる言葉をさらにデジタル情報に変えることは、人でも機械でもできます。AIが今すごい人気ですが、AIがやっている事は、数え切れないソースからある言葉の次には、どの言葉が最も高い確率で来るかを計算してその次に来る言葉を引き出していく事だけです。デジタル変換をやっているにすぎません。ところが、世界というアナログ情報からデジタル情報を引き出す、あるいは逆に言葉というデジタル情報をアナログ情報としてもう一度感じ取る、といった事は、人にしかできません。

また、短歌という言葉で、新たな気づきや新しいモノの見方もできることがあります。

「次々に走り過ぎゆく自動車の運転する人〇〇〇〇〇〇〇〇」(奥村晃作)

結句に何が来ると思いますか。「みな前を向く」です。当たり前だと思うけど、意外と気づかないことです。同様に「信号の赤に對ひて自動車は次々と止まる前から順に」(同)もあります。我々は得てして、世界を認識する際あんまり当たり前のことには気づかないのです。でもこうした歌を読むと、なるほどと思います。こんなことに気づいても一銭の得にもなりませんが、覚えると精神世界が豊かになります。

もう一つ、言葉は新しいものの見方を教えてくれる、これも非常に大事なことです。(煙突が見る位置によって、1～4本にそれぞれ見える、かつてあった東京電力千住火力発電所の通称「お化け煙突」の写真を示しながら)これらの煙突の数は見る位置によって本数が変わってきます。つまり我々が物事を見ると、どうしても自分の視点だけで見てしまうのです。私はサイエンスをやっていますので、サイエンスの一番大事なことは、一つの見方、固定した見方で見ないことで、あらゆる可能性を考えながら物事を見る。それがサイエンスの基本なのです。

例えばこんな歌があります。

「秋深し菊人形の若武者の横笛いずれも唇に届かぬ」(岩切久美子)

岩切さんは横笛が唇から10センチ離れ、あれじゃ音が出ない、ということにパッと気づいたのです。我々はこういう菊人形を見ると、あれは笛を吹いているのだと思い、その途端に唇と笛との間の距離が見えなく

なります。我々はいかに「型」で物を見てしまうか、という事です。

（歌人の）吉川宏志君は上山市（山形県）にある斎藤茂吉記念館で、茂吉の胸像について、次の歌を詠みました。

「茂吉像は眼鏡も青銅（ブロンズ）こめかみに溶接されて日溜まりのなか」

私はこの記念館には何度も行っていますが、眼鏡が溶接されていることに全く気付きませんでした。この歌を読んで、確かめに再訪。我々はいかにモノを見ていないか、という事に改めて気づかされ、吉川君に啓発されました。

2. 挽歌

深い思いほど言葉で伝えるのは難しいものです。言葉はデジタルなので、言葉の間には隙間があります。自分の感情はアナログですから、感情の間には隙間はなく、色んなことを思っています。その感情を一部の言葉に置き換えて表現してみても、自分が一番思っているはずの深い思いは、なかなか表せません。文学、詩、短歌、俳句とどれであれ、言葉で書かれたものについて、我々は作者が表現しきれなかった思いまで読み取ることが非常に重要なことです。挽歌を引きながら話します。

挽歌。これは棺（ひつぎ）を挽（ひ）くときに歌ったという意味で、亡くなった人を追悼する歌文化です。

「終わりなき時に入らむに束の間の後前ありやありてかなしむ」（土屋文明）

茂吉に次ぐアララギ派の大歌人、文明は100歳まで生きましたが、91歳の時に、2歳年上の奥さん、テル子さんを亡くし、その時の歌です。

結婚して60数年、本当に長い間一緒に暮らしてきて、奥さんが先に死んでしまい、これから終わりなき時に入る。自分は生き残ったが、高々あと数年。束の間の後前（あとさき）、ほんのわずかな「あとさき」にどんな意味があるだろうか。実はそれがあって、それが悲しいのだ。わずか1年2年の差なんてどうってことはないと思いながら、でもやっぱりその1年2年、奥さんの方が先に死んでしまい、それが自分には耐え難く悲しいと文明は歌います。文明91歳。もうこれは恋の歌です。挽歌は恋の歌、相聞歌に通じます。どちらも自分が大切に思っている人を思う歌なのです。その思いが出た本当にいい歌です。

文明より少し前の茂吉の時代に、同じアララギ派の島木赤彦がいました、赤彦は、長男の政彦を17歳の時に亡くしました。その時の歌。

「玉きはる命のまへに欲りし水をこらへて居よと我は言ひつる」

「玉きはる」は命にかかる枕詞です。命が絶えようとする前に、お父さん水が欲しいと言ったわけです。当時の医学は水を飲ませてはならないと言われていたのでしょうか、堪えていよ、頑張れ堪えろ、と自分は言った。いずれ亡くなるのだったら、どうしてあの時欲しがっていた水を我慢しろと言ったんだろうか。与えて

やればよかった、と赤彦は後悔します。辛い。最期の水をどうして自由に飲ませてあげなかったんだ、という思いが伝わってきます。

窪田空穂、彼も近代の大歌人です。彼は二女なつをわずか2つの時に亡くしています。脳膜炎でしたが、当時よく分かっていませんでした。病院に連れて行き、それから2日2晩呻き続けて最後、亡くなります。その時の歌です。

「笑ふより外はえ知らぬをさな子のあな笑ふぞよ死なんとしつづ」

小さくて言葉が喋れないから楽しければ笑うし、悲しければ泣く。病院に連れて行って、なっちゃんは苦しく呻き続けていました。両親が見つめて目を見ている時にふっと幼子の目が開いたのだそうです。こちらを向いてお父さんとお母さんにふっと笑って、もう一度こちら側を向いて息が絶えた、と空穂は書いています。何で笑ったのかわからないけれど、そこにお父さんとお母さんがいて安心したのかもしれない。泣いて死んだのなら、まだあきらめもつく、のかもしれない。どっちが良かったのかは分からない。ただ、ふっと笑ってそのまま息が絶えてしまった。この辛さは、親としては耐え難いと思います。人間というのはなんでこんな辛いことを歌にするのだと思います。

空穂はなっちゃんの死に50首もの歌を連作として作っています。娘を亡くしただけでも悲しいのに、その悲しみをもう一度蒸し返すように歌にする。なんでそんなことをするのだと思われるかもしれませんが、我々歌を作っている人間にとって、この気持ちは良くわかります。どうしても作らざるを得なくなってしまう、亡くなった人を思う心だと思わざるを得ないです。挽歌は人が亡くなる時の最後の究極のその人への思いなのです。文明の奥さん、赤彦と空穂の子供に対する歌、たった31文字しかない、こんなに短い言葉の中から我々は、作者がどう思ったか、それを感じることができるのです。歌の力だと思います。

大歌人だけができるものではありません。素人も良い挽歌を一杯作っています。

次にあげるのは新聞の投稿歌で私が採ったものです。

「亡き夫の財布に残る札五枚ときおり借りてまた返しおく」（野久尾清子）

これいい歌ですね。旦那さんが亡くなった。その旦那さんの財布に札が5枚残っています。一万円札だと思います。奥さんは年金生活ですから、月の終わりくらいには金が足りなくなります。どこかへ買い物に行くとき、その財布から札5枚借りて行きます。（次の年金支給日に）お金が入ってきたらまた返す、というのです。返す理由は全然ないわけですね、旦那さんは亡くなっているのですから。でも、時折借りてまた返しおく、というところがとてもいいです。奥さんは時折借りて、こんなもの買ってきたのよ、と“報告”し、またお金ができた時に返す。借りては返すことでいつまでも旦那さんと会話をしている。そんな風景がよく出ています。

次の歌もそうです。

「逝きし夫のバッグのなかに残りいし二つ穴あくテレホンカード」(玉利順子)

私が鹿児島の新聞で年間大賞に採りました。旦那さんは長い間入院しておられて、夕方になると公衆電話で一日あったことを奥さんと話していたのだそうです。まだ携帯電話が一般的でなかった時代です。死後、奥さんは旦那のバッグの中にテレカを見つけて、ああ、この2つ穴であんなことも喋った、こんなことも喋ってくれた。多分走馬灯みたいに記憶が駆け抜けたのでしょう。歌では一言も寂しいとも悲しいとも言っていません。でも(読んだ)我々はこの2つ穴から2人がどんな会話をしたか、奥さんは何のことを今思い出しているのか、という事を思い描くことができるのです。これは歌のすごい力です。

私は今、歌人の中で一番沢山、人の歌を読まされている人間で、朝日歌壇だけで週に2500通の投稿があるので、それだけで年間10万首、その他、短歌コンクールとか他の新聞とかを含めると年間20万首くらいになります。

この歌について私はもう少し言いたいことがあります。テレホンカードは7つくらい穴があるのですが、2つしかまだ穴が開いていない。あと5つは開くはずだった穴で、二人はあのことも言いたかった、これだけは言っておきたかった、きつと言い残したことがあったのではないかと私は思います。

今亡くならうとしている人、死にそんな人を目の前にして、一番言えない言葉があって、それは「ありがとう」という言葉だと私は思います。

私の体験ですが、サイエンスの恩師であるがんの専門家、市川康夫先生がすい臓がんを患い、(いよいよ最期かという時に)見舞ったことがありました。何で行ったか、一つだけ先生に「ありがとうございました」という言葉を伝えたかったからです。私はサイエンティストとして一応やってこられたのは先生がいてくれたからで、その礼だけは言いたいと思っていたのです。先生は本当に弱っておられました。私は世間話をしながら、タイミングを図っていました。あと10日ほどで21世紀になるという日でした。1時間ほど話をしたのに、ついに「ありがとうございました」の一言は言えなかったのです。「ありがとう」と言うと、もうこれで最後のお別れです、あなたは死ぬんですよ、と言い渡すような気がしました。もう一つは、自分の先生に抱くこの思いは、「ありがとう」というような薄っぺらい言葉で言っているのか、それを表現できるのか、という気持ちもどこかにありました。どうしても言えなくて最後に「また来ます」と言って病室を出ました。その時です。部屋の中から市川先生が叫ぶように「永田君、ありがとう」と言われたんです。先生もタイミングを図っていたのだと思います。そして私と同じように面と向かっては言えなかったのでしょう。私も「ありがとうございました」と叫んだつもりでしたが、嗚咽が強くて先生に伝わったかどうか。先

生の容態はその夜、急変して明け方近くに亡くなりました。(恩師との間で互いに)「ありがとう」と言えたことは、どこかで今の自分を支えている気がします。

もう一つ、最近、朝日歌壇の年間大賞に選んであげた歌があります。

「どっちみちどちらかひとりのがのこるけどどちらにしてもひとりはひとり」(夏秋淳子)

夫婦というのは間違いなく、どちらか一人が先に逝き、一人が残ります。どっちみち、どちらか一人が残る、どちらにしても一人は一人だ、という歌です。この歌の奥には、あの寂しがりあなたじゃなくて、私が残ってよかったわねという思いが多分あるのかと思います。これも人生の真理を言い当てています。

3. 相聞歌～私と妻の場合

私の場合は妻が先に逝ってしまいました。彼女は「絶対自分が最後に残る、あなた一人が残ったら大変だから」とずっと言っていました。でも、逆になりました。妻は河野(かわの)裕子と言います。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、「与謝野晶子の再来」と言われ、多くの方が晶子以来の歌人だ、と言って下さいました。

彼女が若い頃の歌で、こんな歌があります。

「たとへば君ガサッと落葉すくふやうに私をさらって行つてはくれぬか」

すごく大胆な歌です。まだ結婚する前、私と付き合い始める前に出会った男性がいて、一回しか会っていないらしいのですが、彼女は本当に思い詰め方が尋常じゃなくて、一途に思う女性でした。私の方に心が傾いてきて、そのことを自分でどうしようもなく思い詰めて(私とデートしている間に)よく喫茶店なんかで倒れてしまい、医務室まで抱えて運んだりしたことが何度もありました。私の青春の懺悔録のような本『あの胸が岬のように遠かった』に詳しく書いていますが、彼女は彼と私への思いに揺れて爆発して、私の胸に自分を投げ出して泣いたことがあって、その夜に彼女が作った歌でした。自分ではもうどうしようもない、たとえばあなたが「落葉」をすくうみたいに私をさらって行ってよ、と詠んだのです。今では色んな中高生の教科書に載っている歌で、若い人たちは大体知っています。その頃、私が作った歌は

「きみに逢う以前のほくに遭いたくて海へのバスに揺られていたり」

「私をさらって」というすごく積極的な女性に対して、男の方が怯えているようで、「もっとしっかりとせよ」と(かつての自分に)言いたくなります。

今から考えると当時はちょっと熱すぎる青春だったかなと思いますし、バカなことも一杯しました。この本のタイトルは「あの胸が岬のように遠かった 畜生!いつまで俺の少年」という私の歌から採っています。女性の胸っていうのは若い男性にとっては永遠の憧れで、いつかは触りたいと思うのだけれど、いつまで経ってもその胸が近くならない、いつまでも遠いま。畜生、いつまで俺は子供なんだと(自分を)呪

詠している。そういう歌です。この本はNHKのプロデューサーの目に留まってドラマになりました。私の役は柄本佑がやって、暫く前までは「柄本より（本物の）私の方がええ男やろ」と言っていたのですが、今、彼は大河ドラマで藤原道長をやっているのです、なかなか言えなくなりました（笑）。

この本の帯の「熱く、性急で、誠実ゆえに傷つけあったー」は本屋が書いたのですが、まさにそういう青春でした。有難いことに彼女と結婚をして彼女が亡くなるまで一緒に過ごすことになりました。彼女は、54歳の時に乳がんが見つかって64歳で亡くなりました。

その間の40年間で歌った歌、若い時からの相聞歌を『たとへば君～四十年の恋歌』という本にまとめました。相聞歌というのは結婚するまでに作るものなのですが、亡くなってから調べると、河野が直接私を歌った歌が500首余りありました。私が彼女を詠んだ歌はさすがにそんなにはないだろうと思ったら450首あって、自分でも呆れました。しかも河野が亡くなってから彼女を思う歌は300首くらい作っているのです、今や河野より私の方が沢山相手の歌を作ったことになりました。

乳がんが見つかる数日前に、彼女が「脇の下にしこりがあるから見てよ」と言い、たしかに脇の下にしこりがありました。知り合いの医学部教授に頼んで、診察を受けましたが、乳がんを告げられました。私は電話で結果を聞きました。私が動揺すると河野がもっと動揺するのは明らかでした。私は京大病院のすぐ横の研究室にいましたので、病院から出てくる河野と平気な顔をして会い「（そんなに）心配ないから」と言って彼女を帰しました。

その時の彼女の歌が

「何といふ顔してわれを見るものか私はここよ吊り橋ぢやない」

私は平気な顔をしたつもりだったのですが、こわばって怖い顔をしていたのでしょう。後にラジオのインタビューで彼女は「あの時の（彼の）顔はこの世を離れたものを見るような目で私を見ていた」と語っています。この歌は結句の「吊り橋ぢやない」が凄い。「ちゃんと見てよ」というくらいなら言えるのですが。河野自身も「吊り橋」という表現を何でしたのか、自分でも良く分かっていなかったと思います。短歌は一番言いたいところを言わないで読者に感じ取ってもらうのが一番良い歌です。なんで「吊り橋」なのか、と考えると、その時の河野の“はかなさ”が出てくるような歌だと思います。誰もうまく解釈できない、良い結句だと思います。

私はかつてがん学会の仕事もしており、当時はもうがん研究からは遠ざかっていたのですが、乳がんの文献にはよく当たって最新の治療法を調べ「昔と違って今はこんなに進んでいるんだ、心配することはない」と彼女に伝えていました。彼女はこう歌います。

「今ならばまっすぐに言ふ夫ならば庇つて欲しかった医学書閉ぢて」

後でこの歌が出てきて、非常にショックでした。学

者としてこちらは心配させないようにと思って、あまり病気のことは触れずにいました。乳がんは温存療法で手術をし、放射線治療に進んでいたのです、私は医学的に客観的に安心させるのが一番と思ったのです。しかし、本人は医学でどうかと言ってくれるより、もっと自分の体を触ったり、声をかけて欲しかったのでしょう。この辺はすごく大きなすれ違いというか、意識の差があって、本当に愕然とさせられた歌でした。

私は私でこう歌いました。

「平然と振る舞うほかはあらざるをその平然をひとは悲しむ」

「きみよりもわれに不安の深きこと言うべくもなく二年を越えぬ」

私は平然であることを自分に課してきたのですが、河野はその“平然さ”を悲しんでいます。そして、私は医学的知識のない河野よりも遥かにがんがどういう病気であって、いかなる経過をたどるのかをよく知っているのです、もっと不安だ、しかし、それを河野に言うことはできない、そんな二年を過ごしてきたという歌です。互いに相手に求めていることが違う、あるいは相手を思うがゆえに、相手が願っていることとすれ違い、そのことに気がつかないで来てしまったのです。

次の歌は河野が亡くなってから私が詠んだ歌ですが、当時の実感です。

「この人を殺してわれも死ぬべしと幾たび思ひ幾たびを泣きし」

河野は治療の後遺症で、眠れなくなり睡眠導入剤を多用しました。それでも眠れなくて、ウィスキーを同時に飲むような生活となり、精神的に非常に不安定になっていきました。睡眠導入剤の副作用もあったのでしょう。1年のうちの何ヶ月か、年に1回か2回ですが、不安定になって荒れるときがあって、私に暴言ははくし、ひどい時には包丁を持ち出して机や畳に突き刺す、そんなことが何度もありました。著書の『歌に私は泣くだらう』に、この10年のことは詳しく書いていますが、彼女が荒れる時、もうこの人を殺して自分も死ぬか、死ぬほかないと思ったことは、数え切れずありました。ただ自分の思いとして非常に辛かったのは、彼女は薬を飲んで朦朧としながらこちらに攻めかかってくるので、自分の言っていることは多分何も覚えていないのだろう、という事でした。

ところが、彼女の次の歌を見て本当に全てを許す、そういう気になりました。

「あの時の壊れたわたしを抱きしめてあなたは泣いた泣くより無くて」

彼女は朦朧としながら、突っかかってくる、或いは殴りかかってくる、そんな時、もう抱きしめて一緒に泣いたことがありました。そのことをあの朦朧としながら、ちゃんと覚えてくれていた、という事がこの歌で分かりました。この一首で、私は彼女の全ての色々な理不尽な、あるいは荒れた所業を許せると思いました。

こんな状態が手術後数年続いていましたが、私の知人で非常に有名な木村敏先生～『時間と自己』という

名著がある方です～が京大の精神科におられて、個人的にも親しくさせていただいていましたので、河野のカウンセリングをお願いしました。河野はそれまでもいくつかの精神科を受診していましたが、うつなどの症状の患者は医師との信頼関係が何より重要です。それまでは（なかなか相性の合う）良い医師が見つからなかったのです。河野は週に1回、木村先生の下へ行き、1時間ぐらい話をしました。それで次第に良くなっていきまして、荒れることは少なくなり、河野も木村先生に色んなことを全部ぶちまけてしゃべって、帰ってきたらもうヘトヘトに疲れていましたが、先生への受診がある種楽しみになっていました。先生も河野が亡くなってから「患者さんの中でも今日この患者さんが来られるんだと思って心待ちにする患者さんがいる。そんな人の1人が河野裕子さんでした」と書いてくれました。精神的に次第に回復していき、（がんの方は）毎年2回ほど病院へ行っては検査をしていました。「なんともない」という、そのたびにお祝いをしていました。がんは普通5年経つと寛解となりますが、乳がんは5年で寛解とはいかないことは知っています。8年目に転移が見つかりました。転移すると後は引き算の人生となり、残りは2年程度と覚悟しなければいけません。

次からはその時からの私の歌です。

「一日が過ぎれば一日減つてゆくきみとの時間 もうすぐ夏至だ」

1日が過ぎると、これは1日が楽しければ楽しいだけ君と一緒にいられる時間が1日も減っていく。残された2年の1日が過ぎていく。「もうすぐ夏至だ」というのは、夏至が過ぎれば過ぎるほど、どんどん時間が短くなってしまう。とにかく1日が過ぎればあなたと一緒にいられる時間が1日減っていく。切実な思いでした。

「ともに過ごす時間いくばくさはされどわが晩年に君はあらずも」

この歌は初めて公に河野ががんだと歌ったものです。さすがにこの歌を出していいものだろうか、と子どもたちに相談しました。まさに河野が死ぬということをも前提にした歌なので、本人が見て大丈夫だろうかと思ったからです。私の家は息子も娘も歌の仕事をしています、どちらも出した方がいいと言ってくれました。河野にも見てもらって、良かったと今は思っています。

「歌は遣り歌に私は泣くだらういつか来る日のいつかを怖る」

二人で歌を残していることは我々の財産だと思っていましたが、一方が先に死ぬとその歌はあまりにも悲しくて、それを読んだらきっと自分は泣いてしまうだろう。歌を読むのがつらい、いつかという日が来る。そのいつかを自分は恐れている、という歌です。河野が死んだら（私は）彼女の歌を読む事が本当にできるのだろうか、とも思っていました。結論から言うと、私は今でも河野の歌を作り、かつての歌を読み直すことで河野がこんなことを思っていたのだということをも今でも感じられる、とても有難いことです。

再発がわかるまでは、私はちょっと頑張りすぎたといっても良く、大丈夫だ、平気だ、心配する事は何もないみたいな、がんを過小評価して、無理に思っていました。ところが、再発がわかってからは自分の方がメロメロになり、本人以上に落ち込んで精神の平衡を保てなくなりました。そのことを河野は喜んだのだと思います。そう思ったのは彼女のこれらの歌からです。

「死ぬな 男の友に言ふやうにあなたが言へり白いほうせん花」

私が河野に死ぬな、死んだらあかと男の友達に言うみたいと言った。そういう歌です。

「死なないでとわが膝に来てきみは泣くきみがその頸子供のやうに」

今度は自分の方が河野に取りすがって死なないで、と泣いて、それを河野は私をなでながら、子供のようだねと言っている、という歌です。私は大丈夫だと思わせたいと頑張って、病気には触れないでわざと平気を装ってきました。そのことで河野は苦しんできたが、今度は逆にあなたの方が死なないでくれ、と言った。そういう私の変化を喜んでる歌だと思います。

「今日夫は三度泣きたり死なないでと三度泣き死なないでと言ひて学校へ行けり」

みっともない（場面の）歌ですが、泣いて取り乱している私を見て、河野はそれが嬉しかったのだと思います。

彼女の歌を続けます。

「生きてゆくとことんまで生き抜いてそれから先は君に任せる」

実はこの歌から後に30首くらい作ったのですが、もう自分で鉛筆を持つ力がなくなって最後の1週間すべて口から出てきた言葉を我々家族が書き留めたものです。私だったり、娘、息子だったりしました。短歌は自分で書きながら、あれこれ直したりして作るのはできませんが、頭の中に出てきた言葉だけで歌になるのは、なかなか稀なことです。河野は最後、物は食べられなくて朦朧としながら、亡くなる前の日まで歌を作り続けました。我々家族としては、その歌を書き留められたことは、本当に幸せなことだったと思います。

「わが知らぬさびしさの日々を生きゆかむ君を思へどなぐさめがたし」

私（河野）が知ることができない寂しさの日々を生きていく、そんな君を思うけれど、慰める言葉がない、という歌です。

「長生きして欲しいと誰彼数へつつつひにはあなたひとりを数ふ」

自分が死んだ後、みんな長生きしてほしい。あの人も長生きしてほしい。この人にも長生きしてほしい。誰かを思うけれど、それを数えながら、やっぱりあなた一人に最後まで生きていてほしい。そういう歌です。

私は彼女が亡くなってからこんな歌を作りました。

「わたくしは死んではいけないわたくしが死ぬときあなたがほんたうに死ぬ」

人間は亡くなくても、残された人間がまだ生きてい

る間はその人は記憶の中で生きているものだとは思っています。ですから河野を生かしておくために私は生き続けなければならない、と思って作った歌です。また、彼女の歌

「さみしくてあたたかきこの世にて会ひ得しことを幸せと思ふ」

この世は寂しかったけれど温かった。そんな、この世にあなたと出会ったことを幸せと思うという歌です。

「あなたらの気持ちがこんなにわかるのに言ひ残すことの何ぞ少なき」

（家族の）あなたらのそれぞれの気持ちがこんなにわかるのに言ひ残すことは何でこんなに少ないのだろう、と言っています。

次は河野が最後に作った歌です。これは亡くなる前の日に私が書き取りました。

「手をのべてあなたとあなたに触れたきに息が足りないこの世の息が」

近代以降、これほどの歌を最後の一首として残した歌人はいないのではないかと、思います。非常に立派なというか、鋭い歌になっています。後に、上皇后、美智子様がこの歌に感激して、歌を寄せていただきました。最後の一首は河野が亡くなる前の日のことで、彼女はこの歌以降はついに作ることはありませんでした。これは私たち家族、あなたとあなたにと、つまり私と子どもたちに、手を差し伸べて触れたいと思うのだが、もう息が続かない、という歌です。しかし、ある別の歌人は違う解釈で、手を伸べて「あなた」と言って、あなたに触れたかったのだが、それだけの息がもう足りないんだという歌、と解釈しています。歌の解釈には正解というのが本来なく、その歌にとってどういう解釈が一番歌が立派に見えるか、よく見えるか、というのが正解だと私は思っています。一方はあなたとあなたに触れたき、他方はあなたと言ってあなたに触れたき、と解釈しています。私は後の解釈を絶対に採りますし、そうも言ってます。うちの子どもたちはいや違う、父と私たち子供に向けて「あなたとあなた」と言っている、と言います。（いずれにせよ）生涯最後にこれだけの歌を残したというのは立派なことだと思います。

（※筆者注・著書に永田さんは「私が自分の手で、この一首を口述筆記で書き残せたことを、涙ぐましくも誇りに思う。」と書いています）

彼女が生きているうちは気づかず、亡くなってから私が感激した歌もあります。

「わたししかあなたを包めぬかなしさがわたしを守りてくれぬ四十年かけて」

これはもうだいたい前の歌で、『母系』という歌集に載っており、知ってはいました。その時はあんまり思っていなかったのですが、亡くなってから本当に大事な歌となりました。私は3歳の時に母親を亡くしており、彼女はある意味母親のようなつもりになって、（永田は）私が包んでやるんだという意識を持った、それは

悲しいことであるけれど、自分の支えともなった、という歌です。河野裕子の生涯にとって、自分（河野）がこの人を守ってやらなければ、そう思うことが自分の40年を支えてきたのだと、というのです。

私（永田）の存在をそんな風に見てきてくれていた。そして、そのことが河野自身の一つの支えにもなっていた、という事は本当に有難いことだと思います。歌を読むとき、状況によってうまく捉えられる歌と捉えられない歌がありまして、この歌については、私はうかつで彼女の気持ちに気がつかず申し訳なかったという気が今はしています。

私の歌。

「訊くことはつひになかつたほんたうに俺でよかつたのかと訊けなかつたのだ」

本当に俺でよかつたのかと聞けなかった。今になってみると、河野の一途な、思い込んだら、もうこの人しかないという思いに十分に自分は応えたのだろうか。本当に応えたのだとは言いがたくて、それが聞けなかった、という歌で私の本心です。でも一方であの大変な河野裕子を御してきたのは俺しかない。他の人間にはちょっと無理だと今でも思っています。

次は最後に紹介する私の一首です。

「凄いわねえとあなたが褒めて褒められて褒められ上手のわたくしがゐた」

私は『知の体力』という本の中で、伴侶にするのはどういう人がいいのか、ということを書きました。その人の前にいると自分の一番いい面が出てくる、そういう人に出会ったら伴侶にすれば良い、と。その人の前にいると、自分が気がつかなかった自分のいい面を自分で気がつくようになる。そういう人間と一緒にになりたい。その人の前にいると自分の嫌な面ばかり出てくるような人がいる。そういう人と一緒ににならない方がいい、とも。私にとって河野裕子は私のいい面をどんどん見つけ出してくれる人でした。一緒にいると、彼女は私が何か言うと、「あんたすごいこと言うのね」と言ってくれる。そうしたらこっちもいい気になって、「でもこんなことも考えられるし」と言って、どんどん盛り上がってきて、俺って結構いいこと言えるやないか、というような感じになります。我が家はある種のお祭り家族で、喋りだすとどんどん止まらなくなつて朝まで酒盛りをするという家です。結局、相手が褒めたときにうまく褒められる、褒められ上手になる。これはとても大事なことです。相手が褒めてくれた時に嬉しがって、もっと自分を羽ばたかせる。こういう人間関係がとても大事だと思います。河野が褒め上手、私は褒められ上手、そんな気がしています。私の人生はサイエンスの方でも仕事をしてきましたし、歌の方でもまあまあ仕事をしてきたと思いますが、突き詰めて言えば河野裕子に出会ったのが自分の人生で一番の意味があるかな、とそんなふうに思っています。

（文責 清水光雄）

「(株)紀文食品 東京工場」と「成田山新勝寺」

今回の企画は2020年4月に開催予定であったが、新型コロナのため中止、今回がリベンジ開催となった。未明からかなりの強風であったが、電車の運行に乱れはなく、参加者25名（当日欠席2名）は定刻8時30分に鍛冶橋駐車場を出発し、(株)紀文食品東京工場には予定通り10時15分に到着した。名称は東京工場だが、場所は千葉県のJR成田線安食（あじき）駅の近くにある。玄関前で集合写真を撮ったのち中に入り、見学者の今朝の体温などを記した“健康確認チェック表”を提出、スリッパに履き替え、ヘアーキャップを付け入室した。食品工場だけに衛生管理に細心の注意を払っている様子が窺えた。一同は会議室に案内され、松村工場長より(株)紀文食品および東京工場の概要について説明を受けた。

(株)紀文食品は1938年（昭和13年）創業で、蒲鉾、おでん種などの水産練り製品やおせち商品を主要商品とし、1959年（昭和34年）からは宮内庁より料理調製などを拝命されている。その後、中華惣菜、変わり豆腐など各種惣菜の開発や海外進出へと事業領域を拡大している。海外展開はタイに工場、シンガポール、米国、EU（オランダ）などに販売拠点がある。2021年に東証一部に上場、2023年3月期の売上高は1056億円、経常利益は17億円。同社の工場は恵庭、東京、船橋、横浜、静岡の5工場体制で、東京工場は東日本の供給拠点として1997年（平成9年）に完成した。敷地面積は東京ドームに匹敵する約46,000㎡、従業員は約300名。

企業のものづくり理念として「疑わしきは仕入れず、疑わしきは製造せず、疑わしきは出荷せず、疑わしきは販売せず」がある。この理念を全社員に浸透させ、幾年にもわたり、顧客からブランドへの信頼と品質への安心感を得てきた。おでん種にある「紀文」の焼印は、その品質に絶対の自信と責任を持ち、顧客に「紀文」ブランドの素晴らしさを知ってほしいという思いから付けたとのことである。また、創業以来「革新と挑戦と夢」のスピリットを持ち続け、伝統の味を守り続けながらも、顧客ニーズに応え新感覚の商品“チーちく”“魚河岸あげ”や健康志向の“糖質0g麺”など新しいジャンルの商品を生み出し、また海外進出も果たした。

東京工場では、蒲鉾、ちくわ、はんぺん、さつま揚げなど約150種類、おでん需要が高まる繁忙期には約300種類もの製品を20の製造ラインで24時間稼働させ製造している。これらの製品は「日配」と呼ばれ、日々、スーパー等から入る注文を16時締めで受け、20時以降に順次出荷している。生産する品目が多い上、スーパー等からの注文は天候など様々な要因で日々変動するが、注文が入り次第、製造する量を刻々

調整し、定時に出荷している。人手による調整も多く、日々大変な作業をされていると感心した。

松村工場長の説明の後、質疑応答に入り、松村工場長には質問の一つ一つに分かりやすく、丁寧に回答していただいた。身近な商品だけに多種多様な質問が次々とあり予定時間を大幅に超過したため、やむなく幹事が質問を打ち切った。一同は工場へ移動。見学通路からガラス越しに焼きちくわの製造ラインを見学した。原材料となる魚を漁獲後すぐに洋上加工船で処理した板状の冷凍魚肉すり身を粉碎解凍し、旨味調味料を加えて攪拌し肉糊状のすり身にしたものをちくわ型に成形、加熱する。「強火の遠火」が焼きちくわ独特の弾力のある食感、焼き焦げ、芳しい香りづけをする秘訣とのことである。冷却した後、クリーンルームで包装、品質チェックして梱包・出荷する。見学を終えた後、会議室に戻り、さつま揚げ、ちくわ、餃子などを試食した。どれも美味しく大変好評であった。帰りがけに同社商品をたくさん詰め合わせたお土産をいただいた。松村工場長には最初から最後までご案内いただき、ご丁寧な対応をしていただいたおかげで、大変、内容の濃い見学会となった。

工場を出発した後、成田山に向かった。成田駅前バスを下車、徒歩で表参道の街並みを楽しみながら昼食処に向かった。昼食は、創業300年の老舗「近江屋」で成田山名物の鰻を食した。昼食後はボランティアガイドの方に境内を案内してもらう予定だったが、強風により本堂の屋根の一部が破損したため、安全上ボランティアガイドの案内は中止となった。

仁王門をくぐると大本堂前の広場はロープが張られ立入禁止になっていたが、境内の各御堂の参拝は可能とのことで、幹事の引率で各御堂を参詣した。成田山新勝寺は真言宗智山派の大本山で、御本尊は不動明王、開山は平安時代中期の天慶3年（940年）と伝えられており、寺院では全国第1位の年間1000万人を超える参拝者がある。境内には大本堂を始め、重要文化財の仁王門・釈迦堂・額堂・光明堂・三重塔や平和大塔など数多くの御堂がある。大本堂は昭和43年（1968年）の建立で、それ以前の本堂であった釈迦堂は、大本堂の建立時に現在の場所に移されたとのこと。額堂にはゆかりの深い七代目市川團十郎の石像が御堂の下にひっそりと座していた。平和大堂は予期せぬ停電で2階の極彩色に彩られた明王殿の中に入ることができず残念であった。

今回は、見学先が比較的近く、バス代の高騰もあり、新たな試みとしてバス利用は片道のみとしており、見学会は14時15分に新勝寺で解散、あとは自由行動とした。懇親会に参加する15名は表参道をぶらぶら歩きながら成田山名物の羊羹などのお土産を買い求め、

懇親会場に向かった。

強風によるハプニングがあったが、計画通りに無事に終えることができ、充実した研修見学会となった。

皆様のご協力に感謝申し上げます。

なお、本文の内容は一部パンフレットやホームページより引用した。
(主幹事 窪田隆)



紀文食品東京工場前で



新勝寺大本堂と三重塔



奉納された額や絵馬を飾る「額堂」



釈迦堂（移築された前本堂）



七代目市川團十郎像

第 241 回ゴルフ会



順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HC	NET
優勝	神保 卓哉	46	49	95	24.0	71.0
準優勝	太田 剛	50	53	103	31.2	71.8
3 位	小坂 紀夫	48	48	96	22.8	73.2

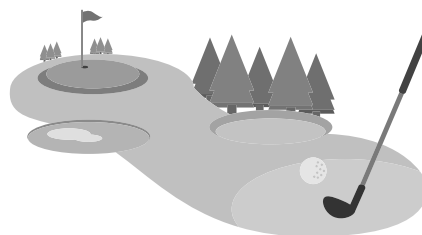
3月13日(水)東京国際ゴルフ倶楽部で第241回ゴルフ会を開催しました。

前日の雨が嘘のような晴天に恵まれ、少し風が強い中を18名5組が熱戦を繰り広げました。

特に若手や女性の参加もあり、参加者数が上昇傾向を示しつつあるのは何よりです。

少し時間が遅れましたがプレー後の表彰式パーティーは笑いの絶えない和やかなものとなりました。

次回は半年後に東京の東方面で現役の皆様にも参加いただけるよう週末開催を予定したいと思います。
(関根紳仁)





句遊会

三月詠草

兼題：蜩、春田、当季雑詠

遠き日の父母を語るや蜩汁

新谷 亮介

古代にも旨きものあり瀬田蜩

森 邦彦

世に何もなかりしごとき春田かな

城戸崎雅崇

恋成りて春田に遊ぶ二羽の鳥

石原 克己

春田行く吾子はもうすぐ二年生

中山 知祐

園児らの歓声あがる春田道

安井 正浩

げんげ田に皺の笑顔や養蜂家

佐藤 政百

都会捨ていつまで続く草むしり

川田 勝美

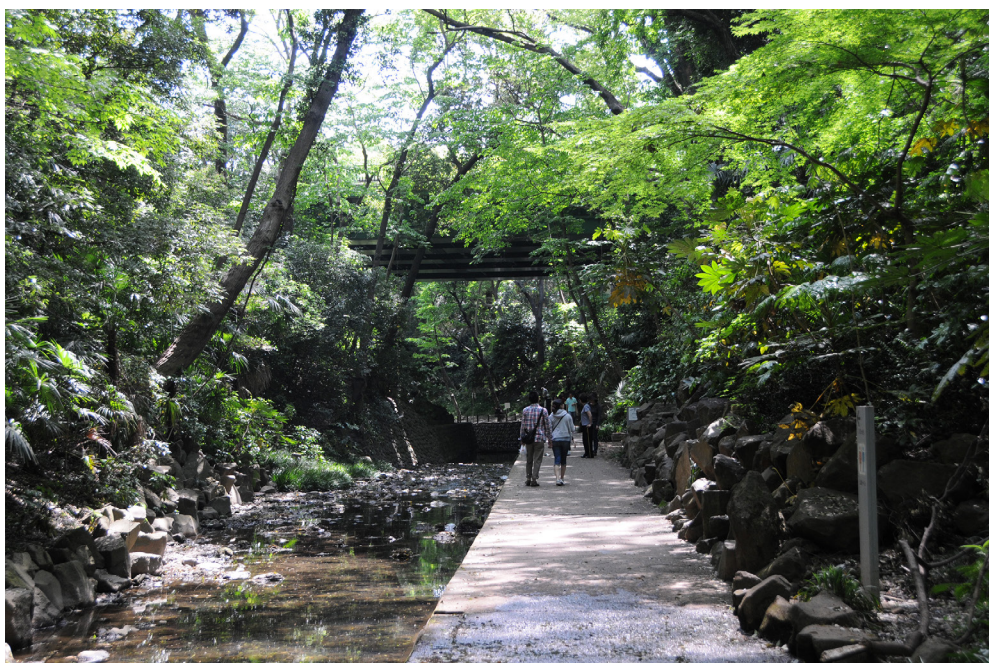
春の野や孫が手を伸べ我握る

眞田 宗興

花冷や妻の旅行にポケットーク

大仲 正敏

写友会



撮影場所：等々力溪谷

「都会の溪谷」 川村 知重

新緑を撮影しようと思いたち、等々力溪谷を訪れた。
鬱蒼とした木立の中に溪谷があり、流れは緩やかだった。
撮影条件：カメラ Nikon D300、f/5、1/100、ISO400

事務局通信



◆行事報告

第217回理事会

3月14日(木)15:00~17:00 事務局 6
オンライン 11

会報委員会

3月11日(月)10:00~12:45 事務局 7
3月19日(火)10:00~11:00 事務局 7

広報委員会

3月8日(金)10:00~11:00 事務局 1
オンライン 9
15:30~17:00 男女平等センター 11
(新入会員5名含む)

◇一般部会

第807回講演会

3月4日(月)14:00~16:00 日比谷図書文化館 32
オンライン 42

講師 歌人、京都大学名誉教授、JT生命誌研究館館長
永田和宏氏

演題 寄り添う言葉

第583回研修見学会

3月18日(月)8:30~14:45 (株)紀文食品東京工場、
成田山新勝寺 25

第241回ゴルフ会

3月13日(水) 東京国際ゴルフ倶楽部 18

◇監査部会

第368回監査セミナー

3月26日(火)14:00~16:30 日比谷図書文化館 28
オンライン 51

(会場:体験2名、オンライン:体験6名含む)

講師 公認会計士 山岸 聡氏

テーマ 2024年3月期決算の留意事項
~海外事業の撤退に伴う会計上の留意点

23年度第9回監査基礎講座

3月12日(火)14:00~17:00 文京シビックセンター 18
オンライン 31

(オンライン:特別聴講B定期1名含む)

講師 元(株)近鉄ロジスティクス・システムズ
常勤監査役 堀田和郎氏

テーマ 期末監査の実行・監査報告書の作成

23年度第8回会計基礎講座

3月22日(金)14:00~17:00 文京シビックセンター 8
オンライン 21

講師 (株)ABC店舗 監査役 石北俊彦氏

テーマ 税務会計と税務申告

第283回監査実務研究会

3月7日(木)14:00~17:00 文京シビックセンター 18
オンライン 20

(オンライン:特別聴講B定期1名含む)

問題提起者 アップセルテクノロジー(株)

監査役 森川英治氏

コーディネーター 弁護士 市川加代子氏

テーマ 監査役会設置会社と監査等委員会設置会社
~違いと弱点補強~
—監査等委員会設置会社への移行を検討し
て—

第130回監査技術ゼミ

3月19日(火)14:00~17:00 文京シビックセンター 17
オンライン 35

(オンライン:特別聴講B定期1名含む)

講師 監査役職務確認書委員会

委員長 堀田和郎氏

企業集団内部統制監査確認書委員会

委員長 浅見公一氏

テーマ 「監査役職務確認書(2024年版)」の改訂につ
いての解説
「企業集団内部統制に関する監査役職務確認書
(2024年版)」の解説

◇生涯学習部会

句遊会 例会

3月6日(水)13:00~15:00 菱友会会議室 8

写友会 例会

3月14日(木)13:30~17:00 文京区民センター 17

画友会 例会

3月2日(土)13:00~16:30 文京シビックセンター 6

楽友会 例会

3月5日(火)13:00~16:30 福祉センター江戸川橋 15

棋友会 例会

3月26日(火)13:00~17:00 六甲クラブ 6

◇同好会

楽器演奏同好会

3月31日(日)13:00~16:30 横浜練習会場 9

エッセイクラブ

3月13日(水)11:30~13:30 如水会館 7

江戸文化研究会

3月17日(日)14:30~16:45 福祉センター江戸川橋 13+2

ウォーキング同好会

3月30日(土)10:00~12:00 浜町~勝鬨橋 14

◆会員・会友異動

(新入会員)

○小林 仁 東洋電機製造(株) 常勤監査役

○加藤知子 (株)ストライク 取締役監査等委員

○小林聖宣 ファーストウッド(株) 常勤監査役

○小俣真一 トレイダーズホールディングス(株)
常勤監査役

○渡辺樹一 (株)東京衡機 常勤監査役

(会員から会友へ)

○中西和俊 元川口化学工業(株)

(退会会友)

○杉山 徹 元日発運輸(株)

会 員	会 友	計
197	138	335

2024年3月末現在

編集後記

☆監査セミナーでは、山岸聡氏に、海外事業で不都合が生じた場合の会計処理、について丁寧な解説をしていただきました。海外事業が拡大するのに併せて出てくる問題を捉えてのもので、参考になります。☆講演会では、細胞生物学者でかつ奥様ともども著名な歌人の永田和宏氏に、亡くなられた奥様との間でのおもいやりあふれた短歌を紹介していただきました。短歌が当事者を奮い立たせ、人びとを感動させ続けたことが理解できます。☆両方とも、変化の激しい時代での企業存続、人間の生き方を考えさせてくださるものと思われます。

(中山祐伸)